

東京都公文書館だより

Tokyo Metropolitan Archives News

第32号

【編集・発行】

東京都公文書館

平成 29 年度登録第 11 号

平成 30 年 3 月発行

【印刷】(株)まこと印刷

《目次》

史料紹介 上野東照宮絵図	1
東京文化財ウィーク 2017 参加企画展 「東京府・東京市行政文書の世界—明治前期を中心に」	2
東京文化財ウィーク 2017 参加企画展 東京都立中央図書館・東京都公文書館・宮内庁宮内公文書館共催 「幕末の大奥と明治の皇城—和宮と昭憲皇太后—」	4
新公文書館建設について	6
SNS 2017 年を振り返って	7
利用案内	8

史料紹介 上野東照宮絵図



上野東照宮絵図『第一課文書・社寺補遺・官房・第1巻〈(内務部第五課社寺掛)〉』(621. A3. 08)

明治 28 年 (1895) 4 月、内務省の訓令を受けた東京府は、府下の古社寺に取調書の提出を求めました。本絵図面は、この時上野東照宮が府に提出した取調書に添付されていたものです。

簡単な見取り図を添えている社寺が多い中、本絵図面はタテ 78 cm・ヨコ 127 cm に及び、その大きさ、鮮やかさは群を抜いています。

上野東照宮は、寛永 4 年 (1627) 東叡山寛永寺の境内に徳川家康を祀るため創建された「東照社」に由来しています。慶応 4 年 (1868) の上野戦争によって寛永寺は多くの伽藍を焼失しましたが、東照宮は戦火を免れました。慶安 4 年 (1651) 三代将軍徳川家光によって建立されたと伝えられる社殿も、荘厳な姿で描かれています。

東京文化財ウィーク 2017 参加企画

「東京府・東京市行政文書の世界—明治前期を中心に」



ポスター

はじめに

東京都公文書館では、毎年、東京都教育委員会が主催する東京文化財ウィークの期間にあわせて、国指定重要文化財である東京府・東京市の公文書を紹介する企画展を開催してきました。今年度は、平成 29 年（2017）10 月 30 日（月）から 12 月 1 日（金）まで、「東京府・東京市行政文書の世界—明治前期を中心に」を、当館展示スペースにおいて開催しました。

■展示構成

展示は、以下の 4 つのコーナーで構成しました。

- I 江戸から東京へ
- II 明治前期の東京
- III 東京府文書に見る士族反乱
- IV 偉人たちの足跡

I では、明治という新しい時代を迎える過程で、江戸で生じた 2 つの大きな出来事である江戸開城と上野戦争を取り上げました。

慶応 4 年（1868）1 月、鳥羽・伏見の戦いに勝利した新政府軍は、翌 2 月に東征大総督府を設置

し江戸へ向かって進軍を開始します。3 月 6 日には駿府（現静岡県）で同月 15 日の江戸城総攻撃を決定しましたが、東征大総督府下参謀西郷隆盛と旧幕府陸軍総裁勝海舟の尽力により中止となり、4 月 11 日江戸城は滞りなく新政府軍に引き渡されました。

江戸城は無事に開城したものの、市中の空気は未だ不穏でした。前將軍徳川慶喜側近の旧幕臣を中心に結成された彰義隊は上野に屯集し、勝らの解散命令にも従わず、新政府軍兵士と衝突を繰り返していました。5 月 15 日、新政府軍は彰義隊に総攻撃を加え、同日中に撃破し江戸を手中に収めました。「上野兵火類焼調」（全 6 冊）には、上野戦争によって焼失した家屋、死傷者などが詳細に記録されています。

II では、明治前期の東京を主に「近代化の推進」という視点から紹介しました。

安政 5 年（1858）に欧米 5 カ国と締結した条約に基づき、明治元年（1868）11 月に東京開市が実施され、築地に外国人居留地が設けられました。

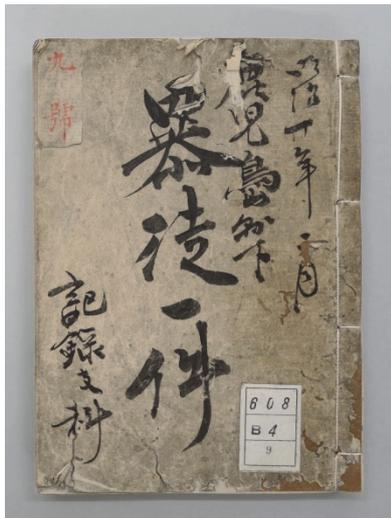
同地には漸次、外国人向けのホテル、外国公使館、教会、学校などが建てられていきます。また、明治 5 年（1872）3 月の大火を受けて、銀座では煉瓦街の建設が開始され、同年 9 月には新橋—横浜間の鉄道が開業します。

こうして西洋文化が盛んに移入される一方で、未だ攘夷思想を持つ者も少なくはなく、外国人のみならず、外国公使館へ勤務したり商用で出入りする日本人もしばしば罵詈雑言を浴びせられたり、時には襲撃されることもありました。諸外国の公使から外務省に寄せられた苦情が、東京府へ回送されています。

行政面では、慶応 4 年 7 月 17 日に江戸を東京とする詔書が発せられ、東京府が設置されます。府庁舎には、幸橋内にあった元大和郡山藩柳澤家の上屋敷（現千代田区内幸町 1-2）があてられ、明治 27 年（1894）鍛冶橋内（現千代田区丸の内 国際フォーラム所在地）に、妻木頼黄つまきよりなかの設計によるルネッサンス様式、鉄骨煉瓦造二階建、延床面積約 4,000 平方メートルの新府庁舎が落成するまで使用されました。

Ⅲでは、明治7年(1874)から10年(1877)にかけて国内各地で起こった士族反乱に関する文書を紹介しました。

江戸時代には特権階級であった旧士族の人々は、秩禄処分により大半が収入の道を失い、国民皆兵を原則とする徴兵令や廃刀令によって武士としての誇りを傷つけられました。やがて、彼らの不満は新政府に向かって暴発しました。明治7年に佐賀の乱、9年に熊本、秋月、萩の乱、そして最大にして最後の士族反乱である西南戦争が10年に勃発します。東京府文書には、乱の首魁となった旧官職者らの位階剥奪を報じる書類、政府が騒乱の波及を恐れ戦況報道の規制を命じた達書、戦地から戦況を報じる東京府宛ての電報、政府側戦死者の招魂社における慰霊祭実施に関する書類などが残されています。



展示史料

また、戦いが半年にも及んだ西南戦争では、官軍側兵士、医師、看護師、写真家としての従軍、武器や食料などの献納、そして献金を申し出た者もありました。

ところで、「公文書」と聞くと堅苦しいイメージを抱かれる方がいらっしゃるかもしれません。そうしたイメージを少しでも払拭し、公文書に親しみ楽しんでいただけるよう、Ⅳでは、明治前期に

活躍した著名人8名(①渋沢栄一、②福沢諭吉、③五代友厚、④大隈重信、⑤榎本武揚、⑥西郷隆盛、⑦津田梅子、⑧板垣退助)に関する史料を紹介しました。

これらの史料からは、福沢諭吉が自著『西洋事情』の偽版横行に憤慨し、著作権の確立を再三にわたり官に訴えたこと、さらには謝罪のため訪れた偽版出版当事者を激しく突詰めていること、上野の西郷隆盛像は当初は皇居前広場に軍服姿で設置する計画であったこと、大阪で財界人として活躍した五代友厚は、上京中に銀製の印鑑や第一国立銀行750株の証書などが入った外国製のカバンを紛失しすぐさま警視庁に届け出たこと、など興味深い事実を知ることができます。

なお、今回の企画展開催中1階ロビーに、明治前期に外国賓客の迎賓館として使用された「延遠館」について紹介するコーナーを設け、DVD「延遠館とその時代」を上映しました。



展示風景：1階ロビー

■文化財ウィーク企画展示を終えて

本展示期間23日の来館者数は445名、アンケート回答数は157件でした。アンケートを分析すると、展示内容については、大変よかった36%、よかった59%、ふつう4%、もう少し1%、と好評を得、多くの方々から「貴重な公文書が残されていることに驚いた」、「文字史料から意外な発見がもたらされるといふ点が興味深かった」といった声が寄せられました。一方で、「もう少し原史料が見たい」、「史料の現代語訳が欲しい」などのご要望も頂きました。

皆様から頂戴した貴重なご意見・ご要望は、今後の企画展示に生かしていきたいと思っております。



展示風景

東京文化財ウィーク 2017 参加企画

東京都立中央図書館・東京都公文書館・宮内庁宮内公文書館共催

「幕末の大奥と明治の皇城—和宮と昭憲皇太后—」

■はじめに

東京文化財ウィーク参加企画展 2017「幕末の大奥と明治の皇城—和宮と昭憲皇太后—」を、東京都立中央図書館・宮内庁宮内公文書館と当館との3館共催で、平成29年(2017)10月28日(土)から11月12日(日)まで、東京都立中央図書館4階企画展示室と多目的ホールの2会場で開催しました。

■時代の転換点を生き抜いた二人の女性

本展示は、江戸から明治へと変わる時代の転換期を、14代将軍・徳川家茂の正室であった和宮(後の静寛院宮)と明治天皇の皇后であった昭憲皇太后という2人の女性に焦点を当て描くものでした。

和宮は、弘化3年(1846)、仁孝天皇の第八皇女として京都で生まれました。嘉永4年(1851)、8歳の時、有栖川宮熾仁親王と婚約します。しかし、大老・井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」などにより幕府の力が弱まっていく中、幕府が権威回復のために朝廷との繋がりを強化させようとした公武合体政策により、熾仁親王との婚約を取り消され、家茂に嫁ぎ、江戸城本丸・西丸御殿の大奥で暮らしました。和宮は、幕府終焉の後、明治2年(1869)、一旦、生まれ育った京都へ帰りますが、明治7年(1874)、再び、江戸から名称の改まった東京に戻り、皇族の一員として麻布市兵衛町に居を構え、明治10年(1877)病氣療養中の箱根・塔ノ沢で亡くなります。

一方、昭憲皇太后は、嘉永2年(1849)、一条忠香の第三女として生まれました。明治元年(1868)に仁孝天皇の孫である明治天皇の後となります。明治2年、先に東京へ行幸されていた明治天皇の後を追って行啓され、かつて江戸城であった皇城(皇居)でお暮らしになりました。

以後、昭憲皇太后は、殖産興業の奨励や女子教育の普及、洋装の奨励、日本赤十字社の創設などに心を尽くされました。

なお、皇太后という呼び名は天皇が崩御あるいは退位した後に天皇の後に付けられるものです。本展示で取り扱った期間、昭憲皇太后は皇后でしたが、キャプションは昭憲皇太后で統一しました。

東京都立中央図書館・東京都公文書館・宮内庁宮内公文書館 共催
東京文化財ウィーク2017参加企画展

幕末の大奥と明治の皇城

—和宮と昭憲皇太后—

Edo Castle's Inner Palace in late Edo period and Meiji Imperial Palace

初公開の大奥の建物に関する図面「寛田家文書」(東京都立中央図書館蔵)をはじめ、重要文化財を含む3館の貴重資料で、幕末から明治にかけて江戸城が皇城へと変化する様子を紹介します。あわせて14代将軍徳川家茂の正室・和宮と、昭憲皇太后(明治天皇の皇后)に焦点を当て、激動の時代を生き抜いた2人の女性の姿を紹介します。

日時 平成29年 **10月28日** から **11月12日** 日まで
休館日 **11月2日**
月曜日から金曜日 午前10時から午後8時まで
土曜日・日曜日・祝日 午前10時から午後5時30分まで

会場 東京都立中央図書館 4階企画展示室・多目的ホール
Tokyo Metropolitan Central Library Gallery and Hall(4F)

平成29年 **11月4日(土)** 午後2時から4時まで **無料** Description provided both in English and Japanese

講演会 「江戸の町から江戸城へ～新大奥図面の世界」
[その後の和宮]
定員100名 抽選

東京都立中央図書館
Tokyo Metropolitan Central Library
〒100-8275
東京都千代田区千代田1-7-13
電話: 03-3442-8451 (代表)
http://www.library.metro.tokyo.jp

東京都公文書館
Tokyo Document Center
〒150-0094
東京都渋谷区三軒玉1丁目20-1
電話: 03-3707-2604
http://www.soumu.metro.tokyo.jp
@soumu.archives/

宮内庁宮内公文書館
The Imperial Household Agency
〒100-8111
東京都千代田区千代田1-1
電話: 03-3213-1111 (代表)
http://www.kunicho.go.jp/kunicho/shisei/kobunshokan.html

東京都立中央図書館
東京都立中央図書館
東京都立中央図書館

展示ポスター

■3館寄れば文殊の知恵

例年、当館では普及広報の一環として年に3～4回の展示を行っています。そのうちの1～2回は他館を会場とした共催展です。

当館と東京都立中央図書館との共催展示は、これまでに何度か行ってきましたが、今回は、初めて、宮内公文書館を加えた3館での共催展となりました。

他館と共催で展示を行う最大の利点は、所蔵している資料の特性が異なる複数の館が集まって展示することにより、バランスのとれた、内容の濃い展示ができるということです。

3館寄れば文殊の知恵と言うところでしょうか。

■資料から読み解く：第1会場

では、今回の展示から、目玉資料の幾つかをご紹介します。

第1会場は1～3章とエピローグの4コーナーで構成しました。

第1章「江戸と江戸城」では、慶長年間（1596～1615）から寛永年間（1624～1644）にかけて、江戸城を中心に江戸の町が作られていく過程を「慶長江戸絵図」（手描きの絵図）、「武州豊島郡江戸庄図」（版本）の2つの絵図を中心に紹介しました。この2枚の絵図は複数枚伝わっていますが絵図により違いがあります。そこで、東京都立中央図書館と当館が所蔵している「慶長江戸絵図」を並べ見比べられるようにしました。



第1章「慶長江戸絵図」群

第2章「和宮とその時代」では、嘉永6年（1853）6月のペリー来航と「桜田門外の変」を契機に世の中が変わっていく様子を東京都立中央図書館所蔵の色鮮やかな錦絵を用いて説明しました。

また、同館が新たに収集した江戸城の建物に関する図面群「豊田家文書」や御殿を飾った^{かざり}金物のデザイン画、御殿の様子を描いた錦絵を用いて、和宮が暮らした江戸城大奥の様子を紹介しました。

第3章「昭憲皇太后とその時代」では、明治維新を経て江戸城が皇城（皇居）へと変化する様子や、昭憲皇太后のご事蹟について、宮内公文書館の資料を中心に紹介しました。中でも、「皇后方服制圖明治四年調制/大正8年写」は、明治4年（1871）頃に昭憲皇太后がお使いになった^{ひおうぎ}檜扇や櫛などが色鮮やかに描かれており、当時の宮中の服制を垣間見ることができました。

エピローグ「和宮・昭憲皇太后と東京」では、徳川幕府が終焉し、明治時代が始まってからの、昭憲皇太后と和宮との交流について宮内公文書館所蔵の資料を中心に紹介しました。

また、昭憲皇太后が奨励された殖産興業の一つであるに養蚕業について取り上げました。養蚕業

の奨励にあたっては吹上に養蚕所が設け、機織の高い技術をもつ人々を招きましたが、当館所蔵の「太政官御用留」という簿冊の中から足利藩（現・栃木県）と岩鼻県（現・群馬県）の技術者を招いた際の公文書を展示しました。

■江戸から明治へタイムトリップ：第2会場

第2会場では、江戸城から皇城へと移り変わる様子を地図と古写真で紹介しました。

会場の中央には、明治10年代に参謀本部陸軍部測量局が測量した「五千分一東京図測量原図」に、江戸時代中期に江戸城内に建てられた建物を載せた図を重ね合わせた床面シートを展示、図の周囲に、明治4年頃の旧江戸城を撮影した宮内公文書館が所蔵する古写真を展示しました。来館者が江戸・明治の地図と古写真を合わせてみることによって、現代から江戸と明治にタイムトリップできるようにしたのです。この展示方法は、来館者自ら時代の積層を体感できるという点で好評価を得ることができました。



第2会場の様子

■おわりに

今回の共催展は、誰でもが気軽に入ることができ、図書館での開催ということもあり、来場者数は約6,600人にも及びました。

展示期間中には、ギャラリートークを連日開催したほか、音声ガイドも導入しました。

また、11月4日（土）には図書館内の研修室を使って講演会も行いました。会場の都合から定員100名の応募制とさせていただきましたが、おかげ様で多くの応募をいただき、当日も大盛況となりました。その一方、会場の制約から抽選により参加をお断りする方も多数にのぼってしまいました。この場を借りてお詫び申し上げます。

新公文書館建設について

■はじめに

東京都公文書館は、昭和 43 年（1968）に竹芝地区（港区海岸）に設立され、これまで都民共有の財産である公文書を適切に保存、公開し、都政の評価・検証や歴史的公文書の研究等に資するという重要な役割を果たしてきました。

その後、平成 22 年（2010）に竹芝地区の再開発計画が発表されたことから、平成 24 年（2012）に世田谷区玉川の旧都立玉川高等学校に仮移転して業務を継続してきました。

そして、平成 26 年（2014）に「東京都公文書館改築基本計画」を策定し、国分寺市泉町の都有地を移転先として、新公文書館建設工事に向けた準備を進めてきました。

新公文書館建設工事は、平成 30 年（2018）1 月から始まりました。工期は平成 31 年（2019）10 月末までの予定です。

新公文書館の建設計画については、「公文書館だより第 28 号」でご紹介したところですが、今回は、新公文書館の特長等についてご紹介します。

■建物概要

構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上 3 階・塔屋 1 階
敷地面積	6,000.01 m ²
建築面積	3,910.04 m ²
延床面積	10,259.59 m ²
最高高さ	17.6 m

■新公文書館の特長

都有施設としては初めての Z E B 化[※]実証実験建築として、外壁の二重化・断熱強化や、太陽光発電設備など、最新の省エネ・再エネ技術を導入します。

こうした技術を活用することで、最適な温湿度管理を行い、書庫面積の拡充と併せ、公文書を適切に管理していくことを目指していきます。

また、ユニバーサルデザインを採用することや、内装には多摩産材を積極的に活用することなどにより、利便性に優れた施設としていきます。

さらには、所蔵資料の電子化をより一層進めることにより、検索や閲覧の利便性を高めることや、SNS を活用した情報発信の強化などにも努めていきます。

■おわりに

新公文書館建設工事は順調に進んでいます。完成までには、幾多の困難も予想されますが、これまで以上に公文書館としての機能の充実や利便性の向上を図ることで、利用者一人ひとりに親しまれる施設づくりを目指していきます。

※Net Zero Energy Building の略で、省エネ基準よりもエネルギー消費量を 50% 以上削減した上で、積極的に再生可能エネルギーの利用を図った建物



完成予想（西側外観パース）

S N S 2017 年を振り返って

■2017 年見た人が多かった facebook

当館 SNS は、所蔵資料、企画展示及び刊行物等を楽しく紹介しています。SNS は平成 26 年(2014) 3 月に始まりましたが、平成 29 年(2017) 11 月ついに投稿回数 500 回を超えました。

それでは、2017 年で一番見た人が多かった記事上位 3 位までを簡単に紹介します。

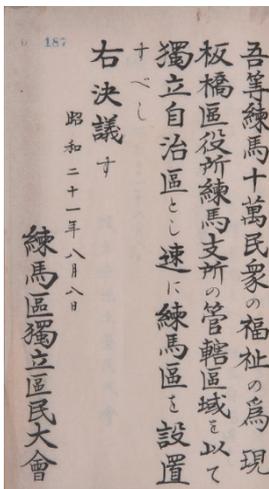
■第 1 位 企画展示「変わる東京～「文化スライド」が写した昭和 30 年代」その 1 展示紹介

文化スライドは、都内各所の何気ない日常風景などを知ることができる貴重なビジュアル資料です。その特性を生かし、現在と当時の様子を比較できるパネル展示を試みたところ、過去最高の 1,000 人近い来場者を得、「懐かしい」「現在との比較が面白い」という声をいただきました。



今回新たな試みとして、惜しくも展示できなかった画像を「残念・無念」シリーズにして紹介しました。このシリーズは、別の企画展でもやってみようと密かに考えています。

■第 2 位 「独立 70 周年—練馬区誕生への軌跡」その 2 独立までの熱き思い



昭和 21 年の決議文
(ウ205. 17. 07)

昭和 22 年(1947) 8 月 1 日、練馬区が板橋区から独立し、23 番目の区として成立しました。昨年はそれから 70 周年の記念すべき年であり、これにちなんで練馬区立石神井ふるさと文化館と当館の共催で標記の企画展を開催しました。この企画展では、練馬区独立の歴史的背景を探るため、江戸期の村から始まり、近代以降のめまぐるしい行

政区画の移り変わりの中に練馬区域を位置づけてみました。

明治・昭和・平成と町村合併が繰り返された日本近代史の中で、住民の粘り強い取り組みの結果、逆に「独立」を実現した練馬区。地方自治・住民自治を問い直す上でも、今改めて掘り下げてみるべきホットなテーマでした。

■第 3 位 湯屋の 2 階に美女はだめ！

この記事は、『東京市史稿』産業篇第五十八に掲載された史料の紹介でした。嘉永 6 年(1853) 2 月 19 日、銭湯の「二階番」に若い女性を差し置いたとして、芝あたりの湯屋 5 軒が吟味を受け、隠密廻りの探索が行われました。

湯屋の 2 階は、風呂上がりにくつろぐ場でした。そこでお茶を出しお菓子等を売るのが二階番で、その売り上げがそのまま収入になりました。二階番は、入浴客に 2 階に上がってもらわないと収入になりません。そこで、16～21 歳位の若い女性を 300 文位で茶汲み女と称して雇い、サービスに当たらせて販売向上を図ります。すると、勤番武士(地方から江戸藩邸へ単身赴任で来ているお侍)が大勢集まり、5、60 文の菓子に 100 文銭を払い「釣りはいらぬ」と見栄をはるので、茶汲み女に支払う金を差し引いても二階番には利益が生じたとのこと。

結局、2 階の美女は禁止されてしまいました。



賢愚湊銭湯新話：3 巻
(国立国会図書館デジタルアーカイブ)

『東京市史稿』産業篇は、江戸の生活を垣間見せてくれる貴重な情報源でもあるのです。

ちなみに今年度、このような SNS の面白い記事を基にした本を刊行する予定です。

利 用 案 内

◇ 来館について

当館の利用には予約の必要はありませんが、次のような場合は、事前にご連絡ください。

- ・ 専門的な調査や、古い資料についてのご相談
- ・ 大量に資料を利用したい場合
- ・ 撮影したい場合（要撮影室予約）

◇ 利用の注意点

当館 1 階入口で入館受付を済ませた後、上履きに履き替え、2 階閲覧室へお入りください。バッグ等のお荷物は、ロッカー（無料）に入れてください。

- ※鍵の紛失にご注意ください。
- ※エレベータはありません。

◇ 閲覧方法

当館の資料は、全て閉架式の書庫に保管してあります。閲覧を希望される方は、閲覧室に備付けの目録やパソコン端末で希望の資料を検索し、「閲覧票」に記入し、ご提出ください。

資料によっては原本保護のため、マイクロフィルム又は電子媒体での閲覧をお願いしています。

◇ 複写について

複写を希望される方は「複写申請票」に記入しご提出ください。電子式複写は、一人（1 団体）1 日 20 枚までです。ただし、マイクロフィルム及び電子媒体からの複写については枚数制限がありません。複写料金は、いずれも 1 枚 10 円です。

※できる限り小銭をご用意ください。

平成 29 年 7 月 1 日より、複写料金が 1 枚 10 円に改定されました。

◇ 利用制限のある資料

以下の資料については利用が制限されます。

- ① 作成又は取得後 30 年を経過していない公文書
- ② 「東京都公文書館における公文書等の利用に関する取扱規程」第 2 条第 2 項又は第 3 項により一般の利用が制限されている次の公文書等
 - ・ 個人情報等が記録されているもの
 - ・ 利用によって破損や汚損を生じるおそれがあるもの
 - ・ 現在、館において使用しているもの（目録作成など、保存及び利用の開始のため使用しているものを含む。）
 - ・ 一般の利用に供しないことを条件として寄贈された資料

利 用 案 内 ・ 交 通 案 内

【利用案内】

- ① 利用時間
月曜日～金曜日 9 時～17 時
- ② 各種申請票及び精算の受付時間
9 時～12 時、13 時～16 時 30 分
- ③ 休館日等
 - ・ 土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日
 - ・ 毎月第 3 水曜日（祝日の場合は翌日）及び年度末最終の平日
 - ・ 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）
 - ・ 臨時の休館日として公示した日

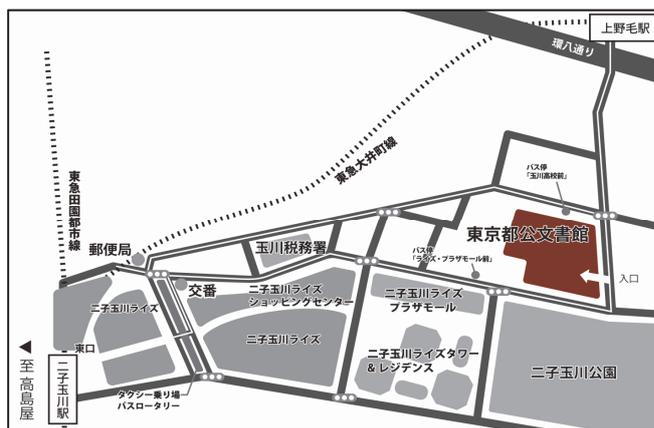
※臨時に閲覧を停止する日もありますので、事前に当館HPにてご確認ください。
- ④ 来館についてのお願い
ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。
なお、身体障害者用の駐車スペースをご用意しています。
バイク・自転車は、駐輪スペースをご利用ください。

【所在地】〒158-0094 東京都世田谷区玉川 1-20-1

【TEL】03-3707-2603 【FAX】03-3707-2500

【ホームページ】<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/>

【案内図・交通機関】



- ① 東急田園都市線・東急大井町線「二子玉川」駅
東口下車 徒歩約 15 分
- ② 東急大井町線「上野毛」駅下車 徒歩約 10 分
- ③ 二子玉川駅・上野毛駅 東急バス「玉川高校前」
下車（黒 02 系統）
- ④ 二子玉川駅 東急バス「ライズ・プラザモール
前」下車（玉 11 系統）



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



古紙配合率70%再生紙を使用しています